



## 児童生徒一人一人に応じた多様な支援を

### 令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果より

暴力行為発生件数といじめの認知件数は、前回に引き続いて全国で一番少ない結果となりました。一方、不登校児童生徒数の出現率（1,000人当たりの発生件（人数））は全国で見ると低いものの、前回よりも5.3ポイント高くなっています。特に小学校の出現率の増加割合が中学校に比べ大きくなっています。先生方は、この結果を受けて、どのように指導に生かしていきますか。

R4 愛媛県の調査結果より抜粋（ ）は前年度比

	公立小中学校の件（人）数 （出現率は、国公立）	愛媛県（国公立）の 全国順位
暴力行為発生件数	17件（+7）	47位
いじめの認知件数	1,786件（+186）	47位
不登校児童生徒数	2,640人（+466）	
不登校出現率	27.3（+5.3）	36位

※全国順位は、数値の多い方を上位としている。

※出現率：1,000人当たりの不登校児童生徒数

#### 【暴力行為について】

今後も、学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権・同和教育の充実により、**相手の立場に立ち、相手の気持ちを考える心**を育てましょう。また、生徒指導体制の確立、非行問題への早期対応等、学校で組織として取り組んでいきましょう。

#### 【いじめについて】

いじめはどの学校にも起こり得るものであり、**まだ認知できていない事実がある**との想定の下、日頃の目配りや定期的な調査等を通して悩みを察知し、早期かつ組織的な対応により、いじめ問題が**小さなうちに解決**できるよう取り組んでいきましょう。

#### 【不登校について】

不登校児童生徒の個に応じた社会的自立に向けて、**誰にとっても安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」**を進めるとともに、次に記載している各校の取組等を参考にしながら、個々の状況に応じた支援に取り組んでいきましょう。



**暴力行為、いじめ、不登校の未然防止**につながる共通のキーワードは、「**安全・安心な学校**」です。

そこで、先日行われた「えひめいじめ STOP！デイ」で使用された事前・事後ミニ動画（5分程度）を紹介します。絵本仕立てで字幕もあり、小学生にも分かりやすい内容となっています。学級で活用したり、指導の参考にしたりしてください。

※期間限定（12月22日まで）配信となっていますので、御注意ください。

① 感謝するクマさん (URL) <a href="https://youtube.com/live/_YP3Pws_fBc">https://youtube.com/live/_YP3Pws_fBc</a>		安心して 過ごせる 学級や学校とは
② お話しよう (URL) <a href="https://youtube.com/live/UKeqFViu0sw">https://youtube.com/live/UKeqFViu0sw</a>		それぞれの 「ちがい」を 認めて受け入れる ためには
③ いいことをすると楽しい（12/4から配信開始） (URL) <a href="https://youtube.com/live/Mo-_n2TYE14">https://youtube.com/live/Mo-_n2TYE14</a>		「いいこと」は 自分や周囲との関係に 何を生み出すのか

## COCOLO プラン（誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策）より

詳細は、こちら⇒



本プランでは、「不登校の**児童生徒全ての学びの場を確保すること**」「心の小さなSOSを見逃さず『**チーム学校**』で支援すること」「学校の風土の『見える化』を通して、**学校を『みんなが安心して学べる場所』にすること**」の三つの柱が掲げられています。

先の調査結果によると、学校内外の専門機関（スクールカウンセラー、養護教諭、教育支援センター、フリースクール等）で**相談・指導等を受けていない小・中学生が全国的に多くなっています。**

（令和4年度 全国：38.2%）。その

**解決策の一つが、8月号の義務教育課だよりで紹介したメタサポキャンパスの利用**です。7月から開設し、現在は県内全小中学校を対象にして運営しています。是非、利用が必要な児童生徒に情報が届くよう、配慮をお願いします。

8月号義務教育課だより (URL) <https://teachers-net.esnet.ed.jp/file/2264> ⇒



各学校においても、引き続き、COCOLOプランの理念を大切にしながら、「不登校により**学びにアクセスできない子供たちをゼロにすること**」を目指し、実態に応じた取組を推進していただきたいと思います。

## 不登校に関する取組紹介①(伊予市立郡中小学校)

郡中小学校では、「小学生の期間に、引きこもりにしない(学校という社会とつながり続ける)」をコンセプトに不登校対策に係る取組を推進しています。本稿では、不登校児童の学校での居場所作り(保健室の活用)を中心に、その取組を紹介し

### 保健室での受入体制の充実(学校の居場所作り)

#### (1) 学級担任等との連携

不登校傾向があり、教室へ入りにくい児童の教室復帰のステップとして保健室での受入体制の充実を図っている。遅れて登校した児童が一度保健室に入室し、養護教諭が学級担任に連絡した後、授業開始時刻前に学級に入るようにしている。保健室を経由して休み時間に学級に入ることで、**心理的負担の軽減**につながっている。

また、保健室登校児童に対して、**学級担任と養護教諭が連携**をして予定を確認し、1日の計画を立てたり、教室に行くための声掛けをしたりしている。**専科教員は授業前に声掛け**をして出席を促したり、**空いた時間に関わり**をもち関係を深めたりしている。朝の忙しい時間帯や必要に応じて管理職、生徒指導主幹、生徒指導主事、生活支援員、専科教員など**様々なメンバーが保健室登校児童に関わり、チームとして対応**している。関わった教員は、児童の学びや生活の状況をプラス面、マイナス面ともに学級担任と共有するようにしている。

#### (2) 学習支援

保健室内の児童の座席を学年や人間関係を考慮して配置したり、個人の荷物を置く場所を設けたりするなど、**落ち着いて学習できる環境を整えている**。児童は、これまで、工作や塗り絵、掲示物の作成、タイピング、読書、あやとり、知育ゲーム等を中心に取り組んでいたが、今年度の2学期より、学習(プリント・eライブラリー・学級担任との勉強等)にも取り組めるようにし、個々の実態に応じた支援体制の更なる強化に努めている。また、体育館の空いている時間にはボール遊びをするなど、運動の機会を設け、心身のバランスの取れた教育にも努めている。

### 取組を通して

学校へ来づらい児童について共通理解を図り、学級担任、養護教諭、生徒指導が連携しながら、保健室での受入体制の充実を図ってきたことで、教室に入りにくい児童も**安心して登校できるようになるとともに**、保健室が交流の場となり、児童同士

が触れ合うことで心の通い合う温かい人間関係が築かれている。

一人一人の不安や悩みに応じて、学校生活での目標を設定し、少しずつ達成していきけるよう声を掛け、個に応じた支援を積み重ねていくことで、状況が好転する児童が見られるようになっている。

今後は、児童の学力保障に努めるとともに、引き続き、チーム学校としての対応を充実させ、**保健室の通常業務に支障をきたさないよう配慮しながら、持続可能な取組につなげていきたい。**

## 不登校に関する取組紹介②(宇和島市立城東中学校)

城東中学校では、校内サポートルーム（以下、SR）を設置し、不登校生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな支援をしています。同ルームは、県教育委員会が、不登校児童生徒一人一人の状態やニーズに応じた支援の在り方を検討するため、県内8中学校に設置しているものの一つになります。本稿では、その取組の一端を紹介します。

### **SRの配置の工夫**

生徒の個々の実態に応じて支援できるように、SRを4部屋設けている。また、養護教諭と連携を取りやすくするために、保健室の近くや、**人目を気にせず入室できるように、外部と直接つながっている1階に配置している。**(※SR3は4階、SR4は本館3階に設置している。)

<SRの外観>

<SR1・2>

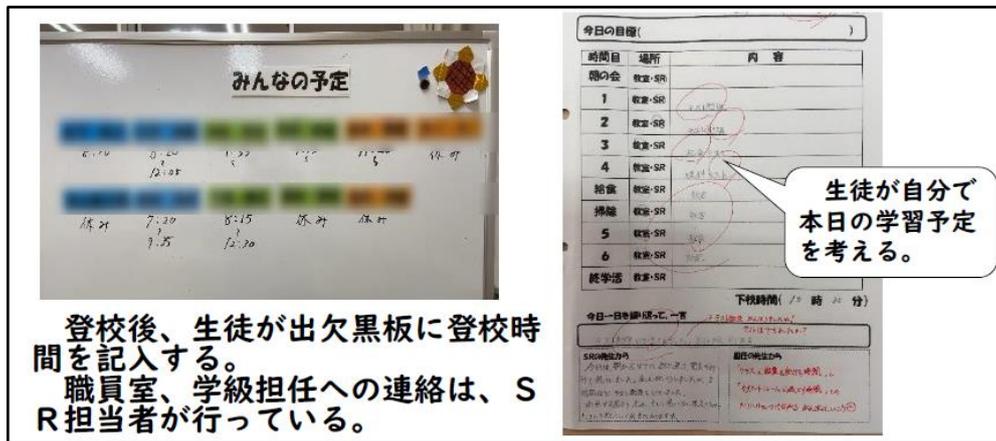


＜他の生徒に会わず安心して登校できる動線の確保＞



**出席の確認と1日の計画立案**

学級担任との連携を図るため、ホワイトボードを使って出欠の確認をするとともに、生徒の主体性を大切にするために、**生徒自身に1日の学習予定を立てさせる**ようにしている。



**個々の実態に応じた支援の工夫**

SRに通う生徒一人一人の実態を、「生活に気力が湧かない」や「人間関係を築くことが難しい」といったように把握し、それぞれに応じた支援を行っている。

＜生活に気力が湧かない生徒への支援＞

＜人間関係を築くことが難しい生徒への支援＞



### 教科担任等と連携した支援

不登校生徒の社会的自立につなげるためには、多くの教員（大人）との関わりが重要となる。本校では、時間割を調整しながら教科担任等が生徒の指導に当たれるようにしている。

#### <美術科の制作>

#### <進路指導>

#### <理科の実験>



美術教員が空き時間に美術室で制作の指導をした。



3年学年主任が、学年集会（進路学習）の内容をSRで説明し、高校進学への見通しをもたせた。



理科の実験に理科教員からアドバイスを受けながら取り組んだ。

### 取組を通して

紹介した取組以外にも、生徒の主体性の向上、SRの周知を目的とし、企画から運営まで全て生徒の手で行う「なにわ縁日」や「リースづくり」などの自主企画プロジェクトの他、ICTを活用した学習支援、保護者との連携を図るための取組等も行っている。

SRを利用している生徒からは、「自分のタイミングで学校に通えるので登校しやすくなった」「SRの先生方が自分に合わせて対応してくださるのでありがたい」といった好意的な声が多く聞かれ、SRが不登校生徒の居場所の一つとして機能している。今後は、SRの利用生徒と所属学級生徒との交流機会の確保や教科担任等との連携強化を図りながら、「学級復帰」、「授業復帰」につなげていきたい。

### 最後に…

学校という場は、多くの人たちとの関わりの中で様々な体験や経験を通して、実社会に出て役立つ生きる力を養う場であり、様々な制度や公的な支援により質の担保された教育機関です。こうした学校教育を受ける機会（周囲の児童生徒との交流や切磋琢磨する機会等）を得られないことが、当該児童生徒の将来にわたって学業の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクが存在することに留意しなければなりません。引き続き不登校児童生徒が学校等において適切な指導や支援が受けられるよう、誰もが安心して学べる**魅力ある学校づくり**や関係機関との連携に取り組んでいただきたいと思います。